

Robotics & Mechatronics

ロボティクス・メカトロニクス部門ニュースレター No.37

September, 2006



日本機械学会
ロボティクス・メカトロニクス部門



ロボメカ部門第84期新体制

部門運営委員会

部門長 新井 健生 (大阪大学)

副部門長 浅間 一 (東京大学)

幹事 谷川 民生
(独)産業技術総合研究所)

ロボメカ講演会実行委員長

2006年 藤江 正克 (早稲田大学)

2007年 長南 征二
(秋田県立大学)

2008年 河村 隆 (信州大学)

技術委員会

委員長 大隅 久 (中央大学)

副委員長 吉見 卓 ((株)東芝)

広報委員会

委員長 内田 康之 (防衛庁)

副委員長 土居 隆宏 (中京大学)

出版委員会

委員長 木口 量夫 (佐賀大学)

副委員長 田所 諭 (東北大学)

欧文誌委員会

委員長 小森谷 清
(独)産業技術総合研究所)

副委員長 大明 準治 ((株)東芝)

第84期部門長就任にあたって

第84期部門長

新井 健生 (大阪大学)

第84期部門長を仰せつかりました。微力でございますが、運営委員の皆様とともに、部門登録会員の皆様のお役に立てるよう、そして部門のますますの発展に貢献できるよう努力する所存でございます。何卒、ご支援頂きますようお願い申し上げます。

言うまでもございませんが、当部門は20ある部門の中でも、そのアクティビティの高さは一、二を誇っております。主催行事であるロボティクスメカトロニクス講演会も、毎年発表件数を更新し続けております。これは、部門登録会員の皆様の常日頃のご努力と同時に、これまでに部門運営に携わってこられました諸先輩先生方の御尽力のおかげであると感謝申し上げます。部門長として特に苦勞せずとも、部門はますます発展していくことと安心をいたしております。

ところで、今年は部門評価の年に当たっております。昨今、大学を始め研究機関など、いたるところで評価が合言葉となっておりますが、本学会でも各部門に対する入念な評価が予定されております。運営委員の皆様を始め、部門登録会員の皆様にも、ご指導、ご協力を賜り、しっかりと対応させて頂きたく存じます。当部門のアクティビティは見守るのみで十分ではありませんが、アクティビティの高さや当部門の持つ良い点



が学会内で十分理解され、そして正しく評価されることが大事ではないかと考えております。評価作業を通じ、このような点をきちんとアピールできれば幸いに存じます。是非ご協力をお願い申し上げます。

また、来年は学会創設110周年記念にあたり、様々な行事が予定されております。年次大会の特別行事などと同様に、部門としても積極的に協力させて頂くことにより、当部門の重要性をよりアピールできるのではないかと考えております。運営委員会の中で議論し、皆様のご協力を頂きながら、魅力あるアイデアを提案していきたいと考えております。

当部門の優れた点が高く評価され、さらにそれが学会本体にも反映されることにより、部門と学会とが共に大きく発展することが大きな目標でございます。このような目標に向かい、少しでも前進するよう部門運営の具体的作業を進めて参ります。何卒、この1年間を宜しくお願い申し上げます。

ロボメカ部門フェロー受賞者紹介

昨年度、日本機械学会のフェロー制度におきまして、ロボティクス・メカトロニクス部門と致しましては、正副部門長を中心に選考の上、歴代部門長各位のご助言をいただきながら多数の候補者を推薦させていただきました。その結果と致しまして、推薦者の中から6名の方々がフェローを受賞されました。受賞者の皆様には、心からお祝

いを申し上げるとともに、ここに、皆様のお名前・略歴をご紹介させていただきます。

いずれの受賞者の方々もロボティクス・メカトロニクス分野におきまして指導的立場にあり、今後益々のご発展と本部門へのお力添えをお願いすべき方々でございます。このような方々と若い技術者や研究者との密な連携が、

ロボティクス・メカトロニクス分野が更なる飛躍を遂げるためにも大切と考えております。受賞者の皆様には、今後も引き続き、本部門および若い会員諸氏に対しましてご助言とご指導を心よりお願い申し上げます。

受賞者紹介（五十音順、敬称略）

川路茂保（熊本大学）



1969年熊本大学大学院工学研究科修了。同年4月熊本大学工学部電子工学科助手、同助教授を経て、1988年電気情報工学科教授、さらに1999年大学院自然科学研

究科教授（2006年に重点化する）、現在に至る。この間、文部省在外研究員（カリフォルニア大学バークレイ校、ハーバード大学ほか、1994-1995年）。ロボスタ制御理論、インテリジェント制御、ロボット工学（マニピュレータ、二足歩行ロボット、）、医療福祉工学などの研究に従事。2001年本会ロボメカ部門貢献表彰（2001年）、2003年計測自動制御学会学術賞

（技術賞）などを受賞。1997-1999年NEDO地域コンソーシアム研究開発でのプロジェクトは産学連携「特選！16チーム」に選ばれる。2005年より（株）アドバンスヘルス研究所の取締役社長。日本機械学会（フェロー）、電気学会（上級会員、IEEJプロフェッショナル）、計測自動制御学会、IEEEなどの会員。工学博士（東京工業大学）。

佐野明人（名古屋工業大学）



1963年2月8日生。1987年岐阜大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了、その後、岐阜大学助手、電気通信大学助手を経て、1994年名古屋

工業大学講師、助教授、2003年同大学トヨタ自動車寄附講座教授、2005年同大学大学院工学研究科機能工学専攻教授、現在に至る。この間、動歩行制御、人間中心型ロボティクスなどの研究に従事。1992年日本機械学会研究奨励賞、1996年日本機械学会ロボメカ部門業績賞、2000年ASME-ISCIE Japan-USA Symposium on Flexible Automa-

tion Best Paper Award, 2002・2005年日本機械学会ROBOMEC賞、2004年グッドデザイン賞、IEEE TExCRA Best Technical Exhibition Award, 2005年計測自動制御学会論文賞・友田賞など受賞。日本機械学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会などの会員。博士(工学)(名古屋大学)。

菅野重樹（早稲田大学）



1981年早稲田大学理工学部機械工学科卒業。1986年早稲田大学大学院博士後期課程単位修得退学。同年早稲田大学助手。1989年つくば科学万博で展示実演された鍵盤楽器演奏ロボットWABOT-2の運動系の開発研究により工学博士。同大学専任講師、助教授を経て、1998年より同大学教授。2001年より同大学WABOT-HOUSE研究所

所長。1993～1994年スタンフォード大学客員研究員。2001年より自動化推進協会会長、2005年よりNPO自動化推進協会理事長。2006年日本機械学会ロボメカ部門学術講演会Robomec06プログラム委員長。1997～2005年IEEE Robotics and Automation Society, Conference Board, Meetings Chair, 2006年からIEEE Robotics and Automation Society, Secretary。2006年から計測自動制御学会SI部門部門長。研究分野は、バイオメカニズムを基に人間と機械のコミュニケーションを考える知能機械学。人間共存ロボッ

ト、機械における心の発生などの研究に従事。1990年日本ロボット学会技術賞受賞、2001年日本機械学会論文賞受賞、2001年日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門学術業績賞受賞、2006年日本機械学会フェロー。著書に、人間型ロボットのはなし(日刊工業新聞社)、工学設計(共訳培風館)、身体性とコンピュータ(共立出版)、メカノクリーチャ(コロナ社)、ワボットのほん5～役に立つロボットの作り方～(中央公論新社)など。

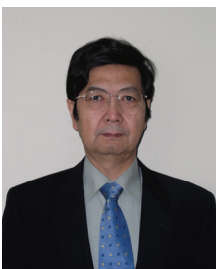
鈴木 康一 (岡山大学)



1959年4月3日生。
1984年3月横浜国立大学大学院工学研究科修士課程修了。1984年4月株式会社 東芝 入社。総合研究所および研究開発センター勤務(2001年1月まで)。この間、1990年3月横浜国立

大学大学院工学研究科博士課程修了。1999年-2001年財団法人マイクロマシンセンター勤務。1992年日本ロボット学会技術賞, 1994年日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門業績賞, 2000年日本ロボット学会論文賞, 2000年日本機械学会賞(論文), ほか受賞。主な著書に, 「マイクロロボットのためのアクチュエータ技術」, 「ロボット機構学」(いずれもコロナ社)。

古川 正志 (北海道大学)



1948年12月6日生。1971年北海道大学工学部精密工学科卒業。1973年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了。同年旭川工業高等専門学校助手。1978年同助教授を経て, 1996年同教授。2006年北海道大学大学院情報科学研究科教授となり, 現在に至る。この間, 1976-1977年米国コーネル大学工学部機械航空学科NSF研究員, 1981-1982年英国イーストアングリア大学計算幾何学プロジェクト客員教授。この間, 世界初の3次元CADシステムの開発, インテリ

ジェントCADの研究, GAの産業応用システムの産学協同開発, 自律分散型システムにおける学習型マルチエージェントシステムの研究, 自己組織化による超高速組み合わせ最適化問題の解法の開発, 複雑システムの研究, 等に従事。1980年第1回工作機械技術振興協会論文賞, 2000年FAIM2000(知的生産に関する国際学会)貢献賞, 2004年第4回先端メカトロニクス情報部門最優秀論文賞, 2004年ANNIE'04(スマートエンジニアリング国際学会)The First Runner-Up Award, 等受賞。日本機械学会, 精密工学会, 情報処理学会, 計測自動制御学会などの会員。工学博士(北海道大学)

細田 祐司 (㈱日立製作所)



1954年12月2日生。1979年電気通信大学大学院電気通信学専攻科修了。同年(株)日立製作所・機械研究所に入所。知能移動ロボット, 極限作業ロボット, 原子力発電プラント遠隔保守・点検シス

テム, 原子力防災支援ロボット, 掃除ロボット, 公共設備保守・点検ロボット, 人間共生型ロボット等の開発に従事。現在, 機械研究所・主管研究員。1992年日本原子力学会賞“極限作業ロボット”受賞, 1998年(財)電気科学技術奨励会第46回オーム賞“タービン検査ロボット”受賞。日本機械学会, 日本ロボット学会, 計測自動制御学会の会員。

日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 ニューズレターNo. 37 (2006.9発行)	
編集	第84期広報委員会
委員長	内田 康之 (防衛庁)
副委員長	土居 隆宏 (中京大学)
幹事	酒本 晋太郎 (新菱冷熱工業㈱)
委員	高山 俊男 (東京工業大学)
委員	市川 純章 (諏訪東京理科大学)
委員	中村 幸博 (NTT)
	サイバーソリューション研究所
委員	相山 康道 (筑波大学)